

国内留学：新潟手の外科研究所の思い出

整形外科 藤井病院 藤井 裕子

1999年9月より4ヶ月間、新潟手の外科研究所で研修いたしました。まだ日手会の研修施設の制度のなかった時代でしたが、前年に参加した新潟手の外科セミナーで短期留学を受け入れていることを知り、個人で応募しました。当時卒後4年目で、大学院1年目に医局から研修を許可いただきました。

当時の新潟手の外科研究所は、吉津孝衛先生、牧裕先生、坪川直人先生が中心でした。とてもアットホームな雰囲気で親しみやすく、早朝のカンファレンスから病棟回診、外来診療、手術は当然のこと、昼食時、手術待機時のちょっとした空き時間でさえも同じ部屋で過ごしていたことが思い出されます。外部からの受入れ研修医は常時定員2名でしたが、私がいた期間には、たまたま私1人でしたので、全手術第1助手で入ることができました。スケジュールは、週3午前各々の先生の外来、木は全日手術、外来担当医師以外は午前午後問わず毎日手術だったと思いますが、外部研修医は外来、手術、リハビリ、検査見学等、その都度自分の希望で自由に動くことができ、報酬の発生しない待遇の利点だと感じました。院内の勉強会やハンドセラピストや実際の患者さんを含めてのカンファレンスは興味深く、週1回ほど新潟大学で形成外科との合同カンファレンスに参加することもできました。臨床経験以外にも、夜間、週末にラットを用いてのマイクロ実習も可能で、吉津先生直々に教えて頂きました。

4か月の研修期間はあっという間に過ぎ去りましたが、未だこれほど密度の濃いと感じる時間はなく、自分がいかに井の中の蛙であるか思い知りました。手元にある新潟で描いた400枚以上の手術記録やカンファレンスのメモ帳は、今でも私の宝物です。貴重な経験を頂いた吉津先生、牧先生、坪川先生にお心よりお礼を申し上げますとともに、是非、若い先生にも経験されることをお勧めいたします。

